

月報

1983: 7 月 號



シンガポール日本商工會議所

＜ 目 次 ＞

(1983年7月号)

～総会特集号～

1983年度年次総会	1
会頭挨拶	10
深田大使挨拶	13
1982年度事業報告	17
1983年度収支予算	56
理事会の動き	58
6～7月の主な経済記事	61
広報欄	65
資料案内	67

1983年度年次総会

シンガポール日本商工会議所

日 時：1983年6月24日（金）

午後6時～同7時30分

場 所：シャングリラ・ホテル（ガーデニア・ルーム）

出席者数：87名、委任状181名、合計268名

議事経過：

1. 総会成立の報告

西田事務局長より現在の出席者56名、委任状による出席者181名、合計237名であり、現在会員数429名の過半数を上回っているので、定款21条により本総会は有効に成立している旨の報告があった。（本人の出席はその後31名増え、87名が出席）

2. 議長の選任

定款23条にもとづき1982年度会頭水戸 清氏が議長となった。

3. 開会宣言

水戸議長より1983年度年次総会の開会宣言があった。

4. 議 事

(1) 会頭あいさつ



水戸会頭より、昨年度における会議所活動の回顧と、今年度の課題についての所感が述べられた。（内容は後述の通り）

(2) 1982年度事業報告



大山総務担当理事から、1982年度シンガポール日本商工会議所の事業活動について説明があった後、一同に諮ったところ異議なく承認された。（詳細は、後述の「1982年度事業報告」をご参照下さい）

(3) 1982年度会計報告並びに1983年度収支予算（案）

西田事務局長より1982年度会計報告並びに1983年度収支予算（案）について説明があった。引続き、福田監事より、「本所会計が適正かつ正確に処理され、また事業も定款にもとづき適切に実施されている」旨の報告があった。

その後、同案について諮ったところ異議なく承認された。

(4) AUDITOR 及び AUDITOR FEE

西田事務局長から、「本所 AUDITOR として TEO ENG TIEN & CO, を引続き任命し、AUDITOR FEE を S\$700 としたい」旨提案があり、これを諮ったところ異議なく承認された。

(5) 理事選挙結果

大山選挙管理委員長より、「1983年度理事選挙については立候補届

出締切時点（５月１６日正午）で、定款３８条に定める理事定数と同数の２３名となり、無投票で全員当選となった」旨の報告があり、一同に諮ったところ異議なく承認された。

(6)正副会頭並びに推薦理事の選任

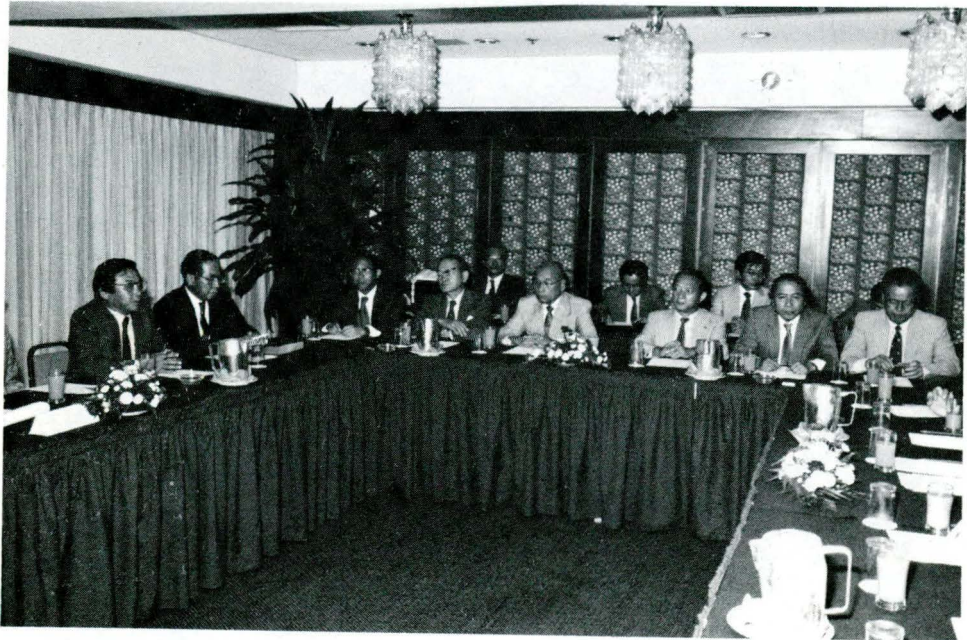
総会を暫時中断し、別室で先に選出された理事（２３名）により臨時理事会を開催、正副会頭並びに推薦理事５名を選任した。その後、総会を再開し、一同に諮ったところ満場一致で承認された。

会 頭 水戸 清氏 (Hitachi Zosen Robin Dockyard (Pte) Ltd.)

副会頭 青柳 茂雄氏 (Mitsui & Co., Ltd.)

副会頭 田中 寛治氏 (The Mitsubishi Bank, Ltd.)

推薦理事 別紙の通り。



臨時理事会

(なお、理事選挙管理規定13項により、理事選挙についての異議申し立ては、新理事成立後15日以内に文書でもって選挙管理委員会に申し出ることにしているが、同期間中に異議申し立てが無かったので、別紙の通り理事が確定した。)

以上で総会の全議事を終了し、引続き水戸新会頭の就任挨拶の後、特にご臨席頂いた在シンガポール日本大使館の深田 宏大使並びにシンガポール商工会議所連合会の林継民会長、中華総商会の陳共存会長からご高話を拝聴した。

そのあと、ゲストを交えて懇親パーティを開催し、盛会裡に閉会した。

1983年度シンガポール日本商工会議所

選挙による理事並びに推薦理事

1. 選挙による理事（23名）（会社名 ABC 順）

NAME OF COMPANY:

NAME:

1. THE BANK OF TOKYO, LTD.	MR. T. OIMATSU
2. CHIYODA SINGAPORE (PTE) LTD.	MR. Y. OHTSUKA
3. THE DAI-ICHI KANGYO BANK, LTD.	MR. T. FUKUDA
4. HITACHI CABLE (S) PTE. LTD.	MR. A. TOSAKA
5. HITACHI ZOSEN ROBIN DOCKYARD (PTE) LTD.	MR. K. MITO
6. JURONG ENGINEERING PTE. LTD.	MR. Y. KONII
7. KNITCRAFT CO., PTE. LTD.	MR. T. IMANAKA
8. MARUBENI CORPORATION.	MR. T. SAKAKIBARA
9. MATSUSHITA ELECTRONICS (S) PTE. LTD.	MR. T. KOIDE
10. THE MITSUBISHI BANK, LTD.	MR. K. TANAKA
11. MITSUBISHI CORPORATION.	MR. T. HAYASHI
12. MITSUI & CO., LTD.	MR. S. AOYAGI
13. THE MITSUI BANK, LTD.	MR. K. HIRAI
14. MITSUI O. S. K. LINES.	MR. T. YASUDA
15. NEC SINGAPORE PTE. LTD.	MR. A. KUROIWA
16. NIPPON STEEL CORPORATION.	MR. O. TAKAHASHI
17. N.Y. K LINE (SINGAPORE) PTE LTD	MR. A. YOSHIMURA
18. OKAMOTO (SINGAPORE) PTE. LTD.	MR. K. MITSUMORI
19. SINGAPORE TIME PTE. LTD.	MR. T. WATANABE
20. THE SUMITOMO BANK, LTD.	MR. T. AKAMATSU
21. SUMITOMO CORPORATION.	MR. K. TAMOTO
22. THE TOKIO MARINE & FIRE INSURANCE CO., LTD.	MR. M. KURASHIGE
23. YOKOGAWA ELECTRIC SINGAPORE PTE. LTD.	MR. A. WATANABE

2 推薦理事（5名）

NAME OF COMPANY:

NAME:

1. C. ITOH & CO LTD

MR. H. MAMEHARA

2. KUMAGAI-GUMI CO LTD

MR. T. FURUTA

3. NISSHO-IWAI CORPORATION

MR. J. OYAMA

4. TOMY (S) PTE LTD

MR. T. GOTO

5. YAOHAN SINGAPORE PTE LTD

MR. T. TAKEDA

1983年度総会風景



新会頭挨拶



総会会場



林繼民 SFCCI 会長ご高話



陳共存・中華総商会会長ご高話



ゲストを囲んで



会 頭 挨 拶

シンガポール日本商工会議所

会頭 水戸 清
日立造船



1983年度シンガポール日本商工会議所の年次総会が開催されるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、大変ご多忙にもかかわらず深田大使閣下のご臨席を得、また後程、シンガポール商工会議所連合会の林継民会長、中華総商会の陳共存会長をお迎えできますことは、私共にとって大きな喜びであり、光栄に存する次第であります。また当商工会議所の多数の会員の皆様が本総会にご出席下さいましたことを深く感謝しておる次第であります。

さて、昨年度における商工会議所活動につきましては、後程議件にあります「1982年度事業報告」（案）におきまして詳細な説明がありますが、私は日星間の相互交流が各方面にわたって進み、経済面で相互依存関係が一段と強まってきたと思います。会員各位におかれましても当国政府及び当地域社会の要請を踏まえて、積極的に事業を展開してこられたことを心からお慶び申し上げる次第であります。とりわけ本所に対する地元関

係者の期待が益々高まっている折から、８２年８月には雇用者機関代表の一員としてリー首相と懇談したのをはじめ、当国の大臣閣下はじめ政府、要人の方達とも度々会合をもつことができました。さらに中華総商会、SNEF、SICCそして SFCCI など当地の代表的機関とも交流することができましたことは、当地で企業を営んでいる日系企業にとって大変有意義なことでありました。また日本の大学を卒業され当国で各方面に於いて活躍されておるシンガポールの元日本留学生が２３０名位おられます。この人達が当地で技術の面で或は管理の面で立派な業績を挙げられるよう具体的な援助をすることをJCCI理事会で万場一致可決されたことも大きな成果でありました。そして地元プレスとも話し合いの場を徐々に拙け相互理解に努めておる次第であります。

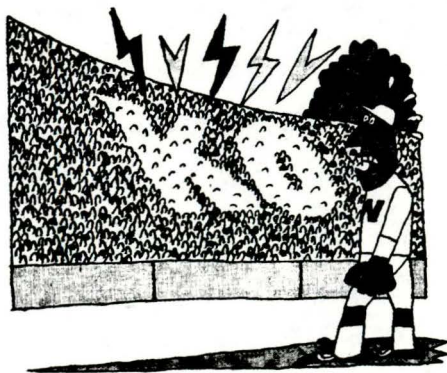
一方、対内的には部会・委員会をはじめ会員講演会、セミナー、懇親会等を年間百回以上開催し、会員相互の情報交換及び交流に努め、世界的不況の克服に努めてまいりました。

このように広範多岐にわたり活発な事業を展開することができましたのは、ひとえに会員各位の絶大なるご支援、ご協力の賜物であり、ここに厚く御礼申し上げます。皆様のお陰をもちまして、本年３月末現在において本所会員数は４３２社と過去最高を記録し、世界各地の日本商工会議所として法人ベースでは最大の規模を誇っております。

次にご承知の通り目下世界的な低成長時代を迎えて、各国は新たな成長発展への道を模索しておるところであります。私共といたしましても当国の大きな政策であります生産性向上のため当国の Work force が一日も早く世界の Top class の高い生産性をもったものになるよう我々の最大の努力を拂うことが必要と思います。また、当シンガポールにおいては、高度技術・高付加価値型産業構造への転換が重要課題となっております。こうした過程で生産技術や経営管理技術の移転に関して、従来に増して在星日系企業への期待が高まり、それにつれて本所の役割も益々重要になるものと思われまゝ。どうか会員各位におかれましては、従来同様商工会議所活動に積極的にご参加頂き、会員各企業の発展のみならず、当国シンガポー

ルの企業の発展に尽すことが、我々海外で企業にたずさわっておる者の最大の任務であると信じています。

私、82年度のシンガポール日本商工会議所の会頭の任務を皆様方のご協力により、大過なく終えるにあたり、会員の方々どうかご健康に配慮され愈々益々企業の繁栄と当国シンガポールの発展に寄与されますよう祈って、御礼の言葉に代えさせていただきます。



深田大使ご挨拶

在シンガポール日本国大使館

特命全権大使 深田 宏



一言 御挨拶申し上げます。

このたび会頭始め役員に就任されました皆様 御就任おめでとうございます。また、お役目を十二分に果たし、今回交替されました皆様本当に御苦労様でした。

昨年秋、当地の大使として着任致しました私にとりまして、今回初めて本商工会議所総会の席に出席させていただくことになるわけですが、着任以来皆様とは種々の機会を通じお付き合いいただき、すでに旧知の間柄という感じが致します。この間、シンガポールの方々を含め各方面の皆様の話を伺っておりますが、商工会議所の皆様を始め、日本人社会の皆様の御努力により、わが国との友好関係が大変な進展をみせているシンガポールへの大使として着任できましたことは、私にとりましてこの上ない喜びであ

ると同時に寔に幸運と感ずるものであります。皆様すでに御承知の通り、シンガポール経済は自らの産業構造を変革しようという大事業に意欲的に取り組んでいるなかで、只今大きな試練に直面しているのではないかと思います。

一昨年まで10%近い実質成長を遂げてきたシンガポール経済も、昨年は、世界景気の停滞の影響を受け、対前年6.3%の低い伸び率にとどまり、また、当国政府が最も重視している生産性向上率も 昨年までの着実な向上から一転して、2%の低いものとなりました。しかしながら、このような厳しい経済環境の中にあつて、シンガポール政府が第一段階の賃金是正政策の段階から本格的な生産性向上へとステージを移した高度技術、高附加価値産業構造への変革政策達成のため、不退転の決意をもって生産性向上の大事業に取り組んでおられることは、誠に適切なことであり称賛の念を禁じえません。

生産性の向上は、第一には設備、生産方式の近代化にあります。が、所詮、機械、設備も人によって動かされるもの、労働者の意欲の盛り上がりこそが最も肝要というのがシンガポール政府の考え方であると思います。この考えに沿って新しい経営方式、労使関係作りが、企業 福祉主義という形で試みられており、その具体的実施方法につき、当商工会議所の意見が様々な機会に求められてきているとうかがっております。また、当商工会議所の会員も相当数パイオニアとしてこの事業に積極的に参加され、貢献しておられると承知しております。この事業は時として日本式経営の導入という言葉で呼ばれますが、私は シンガポールの労使慣行、政策の枠組等を考える時、単なる日本の慣行、方式の直輸入は適當ではなくむしろ、その基本精神や基本的目的を生かしながら当地の事情に真に適應した慣行、方式を十分な時間をかけながら造り出すといった態度こそが重要なことと考えられ事実、シンガポール政府の期待もそういうところにあるものとみられます。日本政府としまして、シンガポール政府の期待に答え、当国における生産性向上のため、政府レベルで可能な諸々の協力措置を推進して参りましたが、つい先日、国家生産性庁との間でその中核となる「生産

性向上計画」に係る基本合意書に署名を了し、近々同プロジェクトが開始されることになりました。

会員の皆様におかれましてもそれぞれの企業環境に合った新しい方法を工夫され、シンガポール社会の期待に応えて行かれることが重要であると思います。

折りしもリー首相の掛声で始まったこの運動も単なる日本のやり方に対する理解を深めるといった従来の理念的段階から具体的方策を実施する段階へと差しかかっており、特にその出発点が日本であるが故に日本企業の本事業への協力、貢献が当地社会から大変な期待をもって注目されていると言えます。

若し、万が一にも日本企業がこの熱い期待に背くようなことがありましたならば、それは単に当該企業に止まらず、日本人社会全体の問題としてクローズアップされてくるおそれもないとは言えないのではないかと思います。

この意味で、現在の試練はシンガポール経済のみならず日本企業にも二重の意味で課せられているものだと思います。

以上のように、シンガポール経済も、また、その一環として活動されておられる皆様方にとっても、厳しい環境の中で新しい局面に対処していかねばならないことが多々あるかと存じます。

このような時こそ、会員相互の意見の交換が重要でありますし、更に重要なことは、地元シンガポールの企業家の方々との意思疎通を充分に図り、これらの方々との協調を図ることであろうと思います。このような協力体制作りの努力は、個々の企業、個人に期待されるところも少なくありませんが、やはりその中核的役割を担い得るのは、当商工会議所において他にありません。

近来、当商工会議所においてはこのための内部の討議を盛んにしておられるとともに、中華総商会その他の地元の団体との交歓にも努めておられるやに、うかがっており、この面でも今後とも一層の御努力が期待される次第であります。

特に、日本に留学し、日本で学ばれた方々は、日本を最も良く理解しておられるシンガポール人であり、日・「シ」両国間の意思疎通の要石たる役割を担っていただける皆様であります。当商工会議所がこのJUGASの皆様と積極的に交流を深められ、会頭自らが先頭に立ってJUGASの活動をバックアップされようと努めていることは誠に適切な事だと思います。どうぞ今後とも日本留学生の採用・幹部への登用といった事に限らず、日本留学生が広く当地社会で活躍し、日・「シ」友好関係の要石としての役割を十分発揮できますよう一層の御援助をお願い致します。

ここにおられます、リム・キー・ミン、K.C.・タン両会頭及び御列席のJUGASの皆様にもよろしくお願い致します。

世界的景気回復には、まだまだ時間を要すると思われませんが、幸い、米国を中心に明るい見通しも見られるようになってまいりました。当地にある日系企業が、商工会議所の皆様のご努力により、シンガポール政府の産業政策の達成に大きく貢献され、シンガポール経済の発展、日・「シ」・経済・政治関係の拡大に寄与あらんことを心から期待すると同時に、これを確信している次第であります。

冒頭、私は就任された役員の皆様におめでとうございますと申しましたが商工会議所の役割の重さを考えますとき、むしろ、御苦勞様ですがよろしくお願い致しますと申し上げた方が適切かもしれないと思っております。他方、また、それだけやり甲斐がある重要なお仕事ともいえると思います。

特に水戸会頭には、四期目の重責を担われることになられたので一層この感が強いわけですが、要するに会頭の経験、識見が必要とされているということであろうと思います。どうぞ日星友好関係をより一層強固なものにするため最大限の御尽力を賜わりますようお願い致します。

皆様方の成功を心からお祈り致しております。

1982年度事業報告

シンガポール日本商工会議所

1. 1982年度のシンガポール経済

(1) 概況

3年連続10%前後の高度成長を遂げたさしものシンガポール経済も世界的な景気低迷のあおりを受けて停滞色を強め、1982年の実質成長率（GDPベース）は6.3%にとどまった。それでも諸外国と比べるとかなり高い成長率となっており、この結果、1982年の国内総生産は289億Sドルに達し、国民1人当りGNPも10,061Sドルと始めて1万ドルの大会にのった。

1982年の経済成長率鈍化の要因としては、これまで伝統的にシンガポール経済成長のけん引力とされてきた国産製品及びサービスに対する海外需要が1981年から減少し始め、昨年一段と低下したことである。このため、1982年の経済成長パターンは従来と著しく様相を異にし、11年ぶりに国内需要が総需要の半分を占めて経済成長を下支えた。

この国内需要の伸びは主に公共及び民間両部門による固定資本支出の伸びによるもので、とくにビル及び建造物、輸送機器、機械類は24%増と最近10年間で最高の伸びを示した。

成長について産業別にみると、前年比36%の顕著な伸びを示した建設部門以外は、軒並み成長率が鈍化した。とりわけ影響が大きかったのは輸出志向の強い製造業部門で、その生産高は前年比6%減少し、1975年以来初のマイナス成長に陥った。

一方、インフレは世界的傾向を反映して沈静化し、消費者物価上昇率は3.9%と前年（8.2%）の半分以下の水準にとどまった。

国際収支についてみると、貿易収支が149億Sドルの赤字となったが、運輸・観光・その他サービス収入が伸び、経常収支では昨年よ

り2億Sドル少ない27億Sドルの赤字にとどまった。加えて資本流入が昨年とほぼ同額の48億Sドルあったことから、総合収支では昨年(19億Sドル)を大幅に上回る25億Sドルの黒字を計上した。この結果、1982年末の外貨準備高は昨年の155億Sドルから179億Sドルに増加した。

(2) 主要産業別動向

① 製造業部門

製造業部門では活況を呈している建設資材製造業を除くと、軒並み成長率が鈍化ないしマイナスとなり、全体としてマイナス5.6%と1975年以来初のマイナス成長に転じた。

この結果、製造業のGDP増加寄与率はマイナス17%となり、経済成長の足を引っ張ることとなった。業種別には電気・電子製品(-11%)、主に造船からなる輸送機器(-11%)、製材・合板(-15%)、織物(-25%)など主要工業が軒並みマイナス成長を記録した。石油工業はマイナス成長こそ免れたものの昨年(17%増)に比べわずか3%と著しく鈍化した。

しかし、製造業への外国投資は依然として高水準を維持し、製造業固定資産で表わした外国投資実行額は1982年6月現在94億Sドルに達し、前年同月に比べ18%の増加を示した。また、内外資を含めた製造業新規投資額は17億Sドルと前年の19億Sドルには及ばなかったものの依然として高い水準を維持した。なかでも高付加価値及び資本集約型プロジェクトへの投資が顕著である。内資のシェアは昨年と同様31%であり、依然として外資の割合が高いが、本国での過剰設備や高失業率に直面して外国からの新規プロジェクトの誘致が困難になりつつある。

② 建設業

建設業は前年比36%増と昨年の倍以上の伸びを示し、急成長した。この結果、GDP増加寄与率も26%と前年(8%)に比べ飛躍的に高まり、業種別GDP増加寄与率では金融、運輸通信に次いで第3位

の座を占めるまでに至った。

このような建設業界の活況の要因としては、H. D. B. の公営住宅建設プログラム促進による公共部門の建設ブームに加えて、分譲アパート、オフィス・ビル、ショッピング・センター、ホテル、工場等の建設により民間部門で前年比 44 % もの伸びを示したことがあげられる。

こうした旺勢な建設需要により、建設資材の生産及び輸入が促進されて建設資材価格が低下し、これにつれて入札価格も低下した。

③ 金融及びビジネス・サービス部門

金融及びビジネス・サービス部門は、前年比 14 % 成長し、GDP 増加寄与率も 36 % と業種別では、引続き第 1 位の寄与率を示した。これは主に国内及びオフショア銀行業に対する活発な需要に加え、不動産開発に対する旺勢な需要を反映したものである。

また、10 行以上のオフショア・バンクの設立（82 年中）により、シンガポールの金融センターとしての地位は一段と高まった。

④ 運輸通信部門

運輸通信部門は、前年比 11 % 増と前年伸び率に比べ 3 ポイント低下したものの、GDP 増加寄与率では 27 % と依然として高い水準を示し、業種別にみた GDP 増加寄与率では第 2 位の座を維持した。こうした中で、シンガポールの金融商業センターとしての特色を反映して国際電話と国際テレックス回数がそれぞれ対前年比 40 % 増、26 % 増を記録し、通信サービス部門は急成長を遂げた。一方、航空貨物需要も急速に拡大したが、海上貨物需要は貿易の停滞により引続き減少した。

⑤ 商業・観光部門

商業・観光部門は、国内商取引、貿易、ホテル業、飲食業を含むが、1982 年は全体として 5 % の低い成長率にとどまった。

業種別にみると、外国貿易は輸出が微増にとどまったものの、コンピュータ・同関連機器をはじめとする輸入の増大により、かろうじて 6 % の成長を達成した。主要貿易取引国としては、引続きマレーシ

ア・日本・ECといったところであるが、とりわけマレーシアは石油取引のため最大の貿易相手国として再び日本にとってかわった。一方、観光客数の増加率も昨年の半分以下の5%にとどまり、このためホテル、商店、レストランの業況が低下し、加えて世帯支出の伸びが景気停滞により鈍化したため、国内取引活動は低調であった。

2 日星経済関係

1982年の日星経済関係は、貿易、投資こそ前年に比べ低調だったものの各方面にわたって相互交流が活発に行なわれた結果、一段と緊密度を増した。

まず、日星貿易をみると、輸入の大幅な減少により、輸出入総額は156億\$ドル、対前年比1%の微増にとどまり、前年伸び率(24%)に比べて著しく鈍化した。この結果、日本はシンガポールの貿易取引全体の15%を占めて依然重要な役割を担っているものの、シンガポールの最大の貿易相手国としての座を再びマレーシアに譲ることになった。対日貿易バランスは、対日輸出が対前年比8%増と伸び悩んだものの、輸入が2%のマイナス成長となったため、昨年比6億\$ドル減の59億\$ドルと赤字幅を縮小した。

つぎに日本の対シンガポール投資は、製造業コミットメント・ベースで、1981年は2億\$ドルをかなり上回ったとみられているが、1982年は前年を若干下回ったものと見込まれている。これは、日本の経済不況に加えて、貿易摩擦の解消を図るため投資先を欧米地域に振り向けたためとみられている。しかしながら、1982年中における日系企業の進出件数は登録ベースで昨年を上回る75件を記録した。これは潜在的にシンガポールに対して依然根強い投資意欲があることを物語っている。

なお、1980年末の日本の投資残高は11億85百万\$ドルで外国投資残高の16%を占め、米国(22億15百万\$ドル)について英国及びオランダとほぼ同水準にある。

一方、シンガポールでは“日本の経済発展の経験に学ぼう”との気

運が高まっているが、その具体例として生産性向上を主眼とした NATIONAL PRODUCTIVITY COUNCIL が発足し、本所からも委員を派遣した。同 COUNCIL では PRODUCTIVITY MONTH の実施、COWEC SCHEME, MEDISAVE SCHEME の検討など具体的な作業を展開した。

このような情勢下にあって、地元政府の在星日系企業に対する期待は益々高まり、本所としても積極的に取り組んできたが、とりわけ雇用者機関代表の一員として1982年8月のリー首相との懇談会はじめNPBのDR.ウオン長官、NTUC書記長のリム・チーオン氏等の懇談会にのぞみ日系企業の立場から卒直な意見交換を行うことができた。

なお、現在当地における日系企業数（駐在員事務所を含む）は840社、在留邦人は約19,000人と推計されている。

3. シンガポール日本商工会議所の活動概要

(1) 総括的概要

1982年度におけるシンガポール日本商工会議所の活動は、会員の要望並びに地元政府からの要請等を踏まえて対内的にも対外的にも新規事業を含めて一段と多様化しつつ積極的な事業を展開した。

まず、対内的には会員の利益及び相互の意思疎通に資するため、従来の事業活動を充実・強化する一方、会員のニーズに即応して新規事業の実施に努めた。具体的には、毎月の定例理事会はじめ部会、委員会等の会合活動に加えて、全会員を対象とする会員講演会、セミナー及び会員懇親パーティを実施した。また、広報活動の充実を図り、本所機関誌である「月報」を毎月発刊したのをはじめ、業種別「会員名簿」（英文・和文併記）、「トップ・マネジメントのためのオリエンテーション」、「シンガポールの概況」を適時改訂したほか、会員に有用と思われる各種資料の出版・翻訳に努め会員各位から好評を博した。

また、年度中に来星した日本からの官民要人並びに各種ミッションを迎えて懇談会を随時開催し、当地事情の紹介及び相互交流に努めた。

一方、対外的には本所に対する地元関係者等の期待が高まっている

折から、本所と当国政府並びに関係機関等との相互理解と交流拡大を促進すると同時に、機会ある毎に会員企業の意見反映に努めた。まず、本所と現地政府関係者との交流としては、82年8月にリー首相と雇
用者機関代表者との懇談会に参加したのをはじめ、当地における生産
性向上運動の推進官庁である NATIONAL PRODUCTIVITY BOARD の
DR.ウォン長官並びに幹部あるいは NTUC 書記官のリム・チー・オン
氏等との意見交換の場をもった。さらに、地元関係機関としては、
SINGAPORE INTERNATIONAL CHAMBER OF COMMERCE, 元在日大学卒
業生協会(JUGAS)などとの交流を深めた。

つぎに、会員企業の意見を踏まえてシンガポール政府関係当局に対
する意見具申活動を適時行った。具体的には、「1983年NWC勧告
に関する意見」、「MEDISAVE SCHEME に関する意見」、「外国人労
働者に係る諸問題」、「12時間・2シフト・システムに関する意見」
など当地の賃金・労働条件に関連するものが中心であった。

一方、政府からの要請に応じて、NATIONAL WAGES COUNCIL,
NATIONAL PRODUCTIVITY COUNCIL など政府審議会へ本所代表を派
遣したほか、NATIONAL PRODUCTIVITY BOARD, VOCATIONAL AND
INDUSTRIAL TRAINING BOARD, SINGAPORE INTERNATIONAL CHAMBER
OF COMMERCE など関係機関へも本所代表を派遣し、それぞれの機関
との関係を図ってきた。

以上のような会議所活動を支えてきた会員は、1982年度末現在
で432社となり、世界各地の日本(人)商工会議所として法人ベ
ースでは最大クラスの規模を誇るまでに至った。また、日本の通商産業
省大臣表彰である1982年度経済協力貢献者表彰を本所理事である
古新居 康氏が受賞されたことは特記されるべきことであった。

以下、本所の1982年度における事業を具体的に概略する。

(2) 対内的事業

①会合活動

1982年度の会合活動は、まず6月25日(金)に82年度総会

を開催、８１年度事業報告並びに会計報告の承認を得るとともに、８２年度予算を決定した。さらに、選挙による理事２３名、推薦理事５名の承認を得るとともに、正副会頭を選任した。

理事会は、第１５３回から第１６４回までの定例理事会に加えて、臨時理事会を１回計１３回開催した。また、正副会頭会議（３回）のほか、事業運営の円滑な推進を図るため総務・企画・渉外・組織・財務各担当理事で構成される運営担当理事会議を各月開催した。

部会活動では単独の部会・分科会開催が２４回、共催が２回の合計２６回開催し、会員相互の情報提供並びに交流に努めた。また、委員会活動は、経営研究委員会、広報委員会いずれも毎月開催したのをはじめ、選挙管理委員会を２回開催した。

つぎに、リー首相との懇談、ＮＷＣからの意見照会、生産性向上運動に係る諸問題等について労働担当理事会議あるいは関連担当理事会議等を合計１５回開催した。

さらに、会員講演会、セミナー、懇親パーティ等全会員を対象とする事業を年度間６回にわたり実施した。

一方、在星及び日本から来星した学識経験者等との懇談会を６回開催した。

以上の会合活動は、年度間で通算１０６回に及び、活発な事業活動を裏付けている。

②要人、ミッションの受け入れ

今年度は、日本からの政府要人の来星が相次ぎ、桜内外務大臣ご一行、古川・大商会頭、江崎ミッションご一行、始関建設大臣ご一行などを迎えて歓迎レセプションを開催した。また、日本の各機関から派遣されたミッションの受け入れに協力した。こうした要人、ミッションの受け入れは年度間で１９件に及んだ。

③広報活動

本所機関誌である「月報」を、その内容の充実を図りつつ広報委員会において編集し、毎月号発刊した。また、業種別「会員名簿」

(和・英併記)、「トップ・マネジメントのためのオリエンテーション」、「シンガポールの概況」等について内容の更新に努めるとともに、「シンガポールの経済事情」、「NWC 勧告全文」、「シンガポールの租税」等会員に有用と思われる資料を刊行した。

(3) 対外的事業

① 現地政府関係者との懇談

本所とシンガポール政府関係者との相互理解を一層促進するため、政府関係者との懇談会を適時開催し、日系企業の意見反映並びに日本の事情紹介に努めた。

具体的には、1982年5月NPBのDR. WONG長官と当地における生産性向上対策について意見交換を行ったのをはじめ、同月当国の政府経済顧問DR. WINSMIUSとの懇談会を開催し、1982年NWC勧告のあり方について討議した。さらに、8月にはリー首相と雇用者機関代表者との懇談会にのぞみ、(a)企業内福利厚生、(b)労働者の勤務態度、(c)マネジメント・スタイル、(d)生産性向上対策等について幅広い意見交換を行った。さらに、次第に具本化しつつあるMEDISAVE SCHEMEについて担当省であるMINISTRY OF HEALTHの幹部との懇談会を開催した。また、当国の労働組合のナショナル・センターである全国職工総会(NTUC)とも初めて懇談会を開催した。その他、NPB、VITB、EDB等と随時意見交換の場をもった。

② 現地関係機関等との懇談

本所と現地関係者との交流並びに意見交換に資するため、当地における関係機関などとの懇談会を開催した。

まず、1982年6月及び1983年1月にシンガポール国際商業会議所(SICC)と懇談の場をもったほか、元在日大学卒業生協会(JUGAS)メンバーとの懇談会を1982年11月に開催した。さらに、1982年9月には地元プレス関係者との会見を行い、当国の生産性向上対策、労働者の勤務態度について本所の見解を明らかにした。

③現地政府及び関係機関への代表者派遣

政府から本所への代表者派遣要請に応じて、NATIONAL WAGES COUNCIL, NATIONAL PRODUCTIVITY COUNCILに本所代表を派遣したほか、VITB、NPB等にもBOARDメンバーを派遣した。

また、現地関係機関であるSICC, INSTITUTE OF SOUTHEAST STUDIESのほか、政府関係を含めて短期の小委員会メンバーに随時本所代表を選任し、当該委員会に派遣した。とくに、今年度は、1982年11月のPRODUCTIVITY MONTHとの関連でNPBの各種小委員会に本所代表を派遣するとともに、NPBが実施している各種訓練コースのうちQC指導者コースの成績最優秀者に対してJ.C.C.I.賞を授与することになった。

(4) 会 合 活 動

① 総 会

○年次総会

日 時：1982年6月25日（金） 午後6時～

場 所：シャングリラ・ホテル

議 事：1. 総会成立報告

2. 議長選任の報告

3. 開会宣言

4. 現会頭あいさつ

5. 1981年度事業報告（案）

6. 1981年度会計報告・1982年度収支予算（案）

7. 内部オーディターより報告

8. AUDITOR 及び AUDITOR FEE

9. 理事選挙結果

10. 正副会頭並びに推薦理事の選任

11. 正副会頭の選任結果

12. 新会頭あいさつ並びに推薦理事の発表

ご来賓ごあいさつ

在シンガポール日本国大使館 特命全権大使 中島 敏次郎 殿

中華総商會 会 長 林 繼 民 殿

カクテル・パーティ

閉 会

② 理 事 会

○第153回

日 時：1982年4月13日（火） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 前回議事録承認

2. 審 議 事 項

(1) 選挙管理委員会の設置

(2) 星州日報、南洋商報への天皇誕生日広告掲載について

(3) シンガポール日本人学校からの依頼

(4) SINGAPORE INTERNATIONAL CHAMBER OF COMMERCE
からの依頼

(5) 外国人労働者に係る諸問題についての意見（案）

3. 報告事項

(1) NWC の審議経過

(2) 部会・委員会開催報告

(3) 来星ミッション

4. 会計報告

5. 入・退会

○第154回

日時：1982年5月11日（火） 午後12時30分～

場所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 前回議事録承認

2. 審議事項

(1) 1981年度事業報告（案）

(2) 1981年度決算（案）

(3) 1982年度予算（案）

(4) 1982年度年次総会次第（案）

3. 報告事項

(1) NWC の審議経過

(2) COWEC SCHEME の現状

(3) SICC との午さん懇談会

(4)部会・委員会開催報告

4. 会計報告

5. 入・退会

○第155回

日時：1982年6月15日（火） 午後5時～

場所：DYNASTY HOTEL

議件：1. 前回議事録承認

2. 審議事項

(1)NATIONAL PRODUCTIVITY BOARD からの依頼

(2)AUDITOR 及び AUDITOR FEE

(3)昭和57年度経済協力貢献者表彰について

(4)NATIONAL CRIME PREVENTION COUNCIL MEMBERSHIP

3. 報告事項

(1)理事選挙結果

(2)1982年度総会次第

(3)DR. WINMIUS との懇談会

(4)部会・委員会等開催報告

4. 会計報告

5. 入・退会

○第156回

日時：1982年7月20日（火） 午後12時30分～

場所：シンガポール日本商工会議所

議件：1. 退任理事ごあいさつ

2. 前回議事録承認

3. 審議事項

- (1)岡田副会頭帰国に伴う副会頭の選任
- (2)各理事の担当部門及び代表者の派遣
- (3)監事・オブザーバーの選任
- (4)顧問の設置並びに選任
- (5)リー首相と雇用機関代表者との懇談
- (6)江崎ミッション歓迎夕食会について
- (7)独立記念日の広告掲載
- (8) NATIONAL CRIME PREVENTION COUNCIL からの依頼

4. 報告事項

- (1)部会・委員会等開催報告
- (2)来星ミッション
- (3)シンガポール日本人会からの依頼
- (4)平井理事の SNEF理事就任

5. 会計報告

6. 入・退会

○第157回

日時：1982年8月10日（火） 午後12時30分～

場所：シンガポール日本商工会議所

議件：1. 前回議事録承認

2. 審議事項

- (1)監事の選任
- (2)代表者の派遣
- (3) NATIONAL PRODUCTIVITY COUNCIL からの依頼

3. 報告事項

- (1)リー首相と雇用者機関代表との懇談会
- (2)顧問の応諾
- (3)部会・委員会等開催
- (4)来星ミッション
- (5)日本語センターからの報告

4. 会 計 報 告

5. 入 ・ 退 会

○ 第 158 回

日 時：1983 年 9 月 10 日（金） 午後 12 時 30 分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 前回議事録承認

2. 審 議 事 項

(1) SICCC からの ASEAN-JAPAN ECONOMIC COUNCIL への参加依頼

(2) 顧問の委嘱（三菱シンガポール重工業 馬場 太平 氏）

(3) 始関建設大臣歓迎パーティの開催

(4) 後任事務局長の派遣依頼

(5) NPB ANNUAL CERTIFICATE PRESENTATION DINNER 1982

3. 報 告 事 項

(1) リー首相と雇用機関代表者との懇談会

(2) 地元プレス関係者との記者会見

(3) 昭和 57 年度経済協力貢献者表彰

(4) 部会・委員会・懇談会等開催報告

(5) 1982 年度「会員名簿」の発刊

4. 会 計 報 告

5. 入 ・ 退 会

○ 第 159 回

日 時：1982 年 10 月 12 日（火） 午後 6 時～

場 所：PAVILION-INTER CONTINENTAL HOTEL

議 件：1. 前回議事録承認

2. 審 議 事 項

(1) 顧問の「基準」について

(2) 本所 OFFICE 契約の更新

3. 報告事項

- (1) 部会・委員会・懇談会等開催報告
- (2) MEDISAVE SCHEME について
- (3) 第1回国際貿易・投資コンベンションの開催
- (4) 本所への寄付依頼
- (5) 会員講座（O A 入門）の開催
- (6) PRODUCTIVITY MONTH OPENING CEREMONY への招待
- (7) 今後の事業計画
- (8) SNEF セミナーの開催
- (9) SICC からの依頼

4. 会計報告

5. 入・退会

○ 第160回

日時：1982年11月9日（火） 午前11時～

場所：SICC

議件：1. 前回議事録承認

2. 審議事項

- (1) 本所 OFFICE 契約の更新
- (2) NATIONAL PRODUCTIVITY BOARD からの依頼
- (3) 関西経済同友会ミッションの受け入れ
- (4) MEDISAVE SCHEME について

3. 報告事項

- (1) 部会・委員会・懇談会等開催

4. 会計報告

5. 入・退会

○第 161 回

日 時：1982 年 12 月 14 日（火） 午後 12 時 30 分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 前回議事録承認

2. 審 議 事 項

- (1) MEDISAVE SCHEME について
- (2) 広報担当理事の選任
- (3) SICC との懇親会
- (4) JUGAS メンバーとの懇談会
- (5) JUGAS メンバーの日本派遣
- (6) 後任事務局長の受け入れ
- (7) 事務局職員の昇給措置等

3. 報 告 事 項

- (1) 部会・委員会・懇談会等開催
- (2) 本所 OFFICE 契約の更新

4. 会 計 報 告

5. 入 ・ 退 会

6. 次回理事会開催日

○第 162 回

日 時：1983 年 1 月 6 日（木） 午後 6 時～

場 所：MARCO POLO HOTEL

議 件：1. 前回議事録承認

2. 審 議 事 項

- (1) 岸副会頭帰国に伴う副会頭の選任
- (2) 会員懇親パーティの開催

3. 報 告 事 項

- (1) 昭和 57 年度経済協力貢献者表彰について

- (2) SICC との懇親ゴルフ
- (3) 通産ミッションの受け入れ
- (4) NPB GOLD MEDAL AWARD
- (5) 第1回国際貿易・投資コンベンションへの参加
- (6) 部会・委員会・懇談会等開催

4. 会計報告

5. 入・退会

○第163回

日時：1983年2月8日（火） 午後12時30分

場所：シンガポール日本商工会議所

議件：1. 前回議事録承認

2. 審議事項

- (1) 1983年NWC勧告について
- (2) 慰霊祭への参加
- (3) NTUC からの依頼
- (4) 川崎事務局長の昇給措置等及び西田（新）事務局長の給与等

3. 報告事項

- (1) 古新居理事・経済協力貢献者表彰を受彰
- (2) SINGAPORE LABOUR FOUNDATION からの依頼
- (3) 部会・委員会・懇談会等開催報告

4. 会計報告

5. 入・退会

○第164回

日時：1983年3月8日（火） 午後12時30分～

場所：シンガポール日本商工会議所

議件：1. 前回議事録承認

2. 審議事項

- (1) 中曽根総理大臣ご一行ご来星について
- (2) 1983年NWU勧告に関する意見（案）
- (3) 1983年年次総会開催日
- (4) 選挙管理委員会委員の選任
- (5) NATIONAL UNIVERSITY OF SINGAPORE からの依頼

3. 報告事項

- (1) 部会・委員会・懇談会等開催報告

4. 入・退会

5. 会計報告

○臨時理事会

日時：1982年6月25日（金） 午後6時

場所：SHANGRI-LA HOTEL

議件：正副会頭の選任

○正副会頭、運営担当理事会議

日時：1982年6月8日（火） 午後12時30分

場所：シンガポール日本商工会議所

- 議件：
- (1) 1982年度年次総会次第
 - (2) 桜内外務大臣との午さん懇談会（日本人会との共催）
 - (3) 会員講演会
 - (4) 古川大阪商工会議所会頭一行との夕食会

○正副会頭・総務・渉外・担当会議

日時：1982年7月5日（金） 午後12時30分

場所：シンガポール日本商工会議所

議件：担当理事の決定等

○正副会頭、運営担当理事会議

日時：1983年3月31日（木） 午後7時～

場 所：雲海レストラン

議 件：新年度の事業運営について

③ 運営担当理事会議

○日 時：1982年5月7日（金） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：(1)1982年度収支予算（案）

(2)1981年度事業報告（案）

(3)NATIONAL UNIVERSITY OF SINGAPOREからの依頼

(4)SINGAPORE INSTITUTE OF INTERNATIONAL AFFAIRSからの依頼

(5)日系企業に関するアンケート調査

○日 時：1982年6月8日（火） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：(1)1982年度年次総会次第

(2)桜内外務大臣との午さん懇談会（日本人会との共催）

(3)会員講演会（講師：日本長期信用銀行取締役調査部長

竹内宏氏）

(4)古川大阪商工会議所会頭一行との夕食会

○日 時：1982年6月30日（水） 午後8時～

場 所：YORK HOTEL

議 件：今後の運営について

○日 時：1982年8月27日（金） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：(1)昭和57年度経済協力貢献者表彰について

(2)日系企業（在星）に対するアンケート調査実施依頼

（東京学芸大学 今野 浩一郎 講師

神奈川大学 八幡 成 美 助手）

○日 時：1982年10月8日（金） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 当面の課題

- (1)本所テナント料の値上げについて
- (2)顧問の「基準」について
- (3)PRODUCTIVITY MONTH OPENING CEREMONY への招待
- (4)JUGAS メンバーからの依頼
- (5)本所への寄付依頼
- (6)OFFICE AUTOMATIONセミナー開催

2. 今後の運営

(1)事業計画

○日 時：1982年11月3日（水） 正午～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 当面の事業関係

- (1)本所 OFFICE 契約の更新について
- (2)第160回理事会懇親ゴルフ
- (3)関西経済同友会ミッションの受け入れ

2. 本所への寄付依頼

- (1) NATIONAL PRODUCTIVITY BOARD
- (2) SINGAPORE SPORTS COUNCIL

○日 時：1982年12月10日（金） 正午～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 当面の課題

- (1)SICCとの懇談会
- (2)広報委員会担当理事の選任
- (3)後任事務局長の受け入れ
- (4)JUGAS メンバーとの懇談会
- (5)JUGASメンバーの日本派遣
- (6)次回理事会・年末年始業務

2. 今後の予定

- (1)1月の行事

○日 時：1983年1月5日（木） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 当面の事業

(1) SICC との懇親ゴルフ

(2) 会員懇親パーティ

(3) 通産ミッションの受け入れ

2. 今後の事業

(1) タイ・バンコク日本商工会議所との交流

3. そ の 他

(1) 昭和57年度経済協力貢献者表彰について

○日 時：1983年2月3日（木） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 当面の事業

(1) 1983年NWC勸告

(2) 慰霊祭への参加

(3) 本所への（寄付）依頼

① SINGAPORE LABOUR FOUNDATION

② NATIONAL TRADE UNION CONGRESS

2. 今後の計画等

(1) 1982年度収支予算見込

(2) 不況対策懇談会（仮称）の設置

(3) 会員懇親会

○日 時：1983年3月2日（水） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件：1. 当面の課題

(1) 1983年NWC勸告に関する意見（案）

(2) 1983年年次総会開催日

(3) 1983年選挙管理委員会委員の選任

(4) NATIONAL UNIVERSITY OF SINGAPORE からの依頼

◎ 労働担当理事会議

○ 日 時： 1982 年 4 月 28 日（水） 午後 2 時～

場 所： シンガポール日本商工会議所

議 題： 「MR. HAM CLITEUR'S REPORT に関する本所の意見照会
について」

◎ NWC 担当理事会議

4 月 20 日（火）、23 日（金）、27 日（火）、30 日（金）

5 月 4 日（火）、7 日（金）

④ 部 会

◎ 第一工業部会

○ 8 月 例 会

日 時： 1982 年 8 月 26 日（木） 午後 12 時 30 分～

場 所： シンガポール日本商工会議所

議 題： (1) 正副部会長の選任
(2) 本年度 NWC の実施状況
(3) 本年度の部会運営について

○ 11 月 例 会

日 時： 1982 年 11 月 24 日（水） 午後 7 時 30 分～

場 所： 山 源

幹 事 会

○ 1 月 例 会

日 時： 1983 年 1 月 15 日（土） 午前 7 時 30 分～

場 所： JURONG COUNTRY CLUB

懇 親 会

○ 3 月 例 会

日 時： 1983 年 3 月 21 日（月） 午後 7 時～

場 所： KING'S HOTEL

懇談会と送別会

○ 3 月 例 会

日 時：1983 年 3 月 23 日（火） 午後 1 時～

場 所：JURONG COUNTRY CLUB

懇 親 会

◎ 第二工業部会

○ 4 月 例 会（第二、第三工業部会）

日 時：1982 年 4 月 15 日（木） 午後 12 時 30 分～

場 所：JURONG COUNTRY CLUB

懇 親 会

○ 8 月 例 会

日 時：1982 年 8 月 26 日（木） 午後 7 時～

場 所：THE PAVILION INTERCONTINENTAL HOTEL

議 件：（1）正副部会長の選任

（2）本年度 NWC の実施状況

（3）本年度の部会運営について

○ 3 月 例 会

日 時：1983 年 3 月 30 日（水） 午後 7 時～

場 所：DYNASTY HOTEL

議 件：（1）1983 年 NWC 勧告に関するアンケート調査結果（報告）

（2）今年の NWC について（意見及び情報交換）

◎ 第三工業部会

○ 4 月 例 会（第二、第三工業部会）

日 時：1982 年 4 月 15 日（木） 午後 12 時 30 分～

場 所：JURONG COUNTRY CLUB

懇 親 会

○ 9 月 例 会

日 時：1982 年 9 月 2 日（木）

場 所：シンガポール日本商工会議所

幹 事 会

○ 10 月 例 会

日 時：1982 年 10 月 22 日（金） 午後 12 時 30 分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 件： (1)理事会報告

(2)正副部会長の選任

(3)今年度 NWC の実施状況（情報交換）

○ 11 月 例 会

日 時：1982 年 11 月 23 日（火） 午後 12 時 30 分～

場 所：JURONG COUNTRY CLUB

懇 親 会

○ 3 月 例 会

日 時：1983 年 3 月 20 日～21 日

場 所：マラッカ

工場見学及び懇親会

◎ 貿易部会

○ 7 月 例 会

日 時：1982 年 7 月 12 日（月） 午後 7 時～

場 所：KING'S HOTEL

議 題：「ASEAN におけるビジネス・コンサルタント制度の実施
について」

○ 9 月 例 会

日 時：1982 年 9 月 10 日（金） 午後 6 時 30 分～

場 所：CENTURY PARK SHERATON, SINGAPORE

議 題：(1)正副部会長の改選

(2)講 演：「東南アジア情勢をめぐって」

在シンガポール日本国大使館

参事官 登 誠一郎 氏

○ 11 月 例 会

日 時：1983 年 1 月 14 日（金） 午後 7 時～

場 所：DYNASTY HOTEL

議 題：「日本貿易会派遣 ASEAN 調査団に関するアンケート取
りまとめ」

◎繊維分科会

○8月例会

日 時：1982年8月24日（火） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 題：東南アジア市場調査団との懇談

○10月例会

日 時：1982年10月6日（水） 午後7時～

場 所：MANDARIN HOTEL

懇 談 会

◎金融保険部会

○6月例会（保険分科会）

日 時：1982年6月15日（火） 午後12時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

意 見 交 換

◎建設部会

○8月例会

日 時：1982年8月31日（火） 午後7時～

場 所：ORCHID INN

議 題： (1)理事会報告

(2)正副部会長の改選

○12月例会

日 時：1982年12月10日（金） 午後2時30分～

場 所：シンガポール日本商工会議所

議 題： (1)M R Tについて

(2)副部会長の選任

◎流通サービス部会

○8月例会

日 時：1982年8月6日（金） 午後7時～

場 所：HOTEL GRAND CENTRAL, OMEI RESTAURANT

- 議 題： (1)理事会報告
 (2)正副部会長の選任
 (3)今後の部会運営について

◎ 化学品石油部会

○ 8 月 例 会

日 時： 1982 年 8 月 3 日（火） 午後 7 時～

場 所： KING'S HOTEL

- 議 題： (1)理事会報告
 (2)正副部会長の選任
 (3)今後の部会運営について

○ 2 月 例 会

日 時： 1983 年 2 月 24 日（木） 正午～

場 所： SICC

懇 親 会

⑤ 委 員 会

◎ 広報委員会

第 1 回	1982 年 4 月 8 日（木）	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 2 回	1982 年 5 月 4 日（火）	午後 7 時 30 分	YORK HOTEL
第 3 回	1982 年 6 月 4 日（金）	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 4 回	1982 年 7 月 27 日（火）	午後 7 時	THE PAVILION
第 5 回	1982 年 8 月 13 日（金）	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 6 回	1982 年 9 月 9 日（木）	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 7 回	1982 年 10 月 14 日（木）	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 8 回	1982 年 11 月 11 日（木）	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 9 回	1982 年 12 月 16 日（木）	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 10 回	1983 年 1 月 21 日（金）	午後 7 時	DYNASTY HOTEL
第 11 回	1983 年 2 月 7 日（月）	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 12 回	1983 年 3 月 4 日（金）	午後 7 時	雲海レストラン

◎経営研究委員会

第 1 回	1982 年 4 月 23 日 (金)	午後 3 時	松下電業・マレーシア
第 2 回	1982 年 5 月 13 日 (木)	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 3 回	1982 年 6 月 24 日 (木)	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 4 回	1982 年 7 月 15 日 (木)	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 5 回	1982 年 8 月 19 日 (木)	午後 7 時	HOTEL EQUATORIAL
第 6 回	1982 年 9 月 16 日 (木)	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 7 回	1982 年 10 月 21 日 (木)	"	"
第 8 回	1982 年 11 月 18 日 (木)	"	"
第 9 回	1982 年 12 月 16 日 (木)	"	"
第 10 回	1983 年 1 月 20 日 (木)	"	"
第 11 回	1983 年 2 月 24 日 (木)	午前 10 時	三越 GARDEN
第 12 回	1983 年 3 月 17 日 (木)	午前 9 時 30 分	会 議 所

◎選挙管理委員会

第 1 回	1982 年 4 月 22 日 (木)	午後 12 時 30 分	会 議 所
第 2 回	1982 年 5 月 18 日 (火)	午後 12 時 30 分	会 議 所

⑥関係担当理事、正副部会長、委員長等意見交換会

○外国人労働者に対する新 SCHEME について意見交換会

1982 年 4 月 6 日 (火) 午後 12 時 30 分 会 議 所

○COWEC (COMPANY WELFARE SCHEME) についての意見交換会

1982 年 4 月 28 日 (水) 午後 12 時 30 分 会 議 所

○DR. WINSEMIUS との懇談会における発言内容について意見交換会

1982 年 4 月 20 日 (木) 午後 2 時 会 議 所

○リー首相との懇談会に関する本所意見について意見交換会

1982 年 7 月 9 日 (金) 午後 12 時 30 分 会 議 所

○リー首相との懇談会に関する本所意見について意見交換会

1982 年 7 月 12 日 (月) 午後 2 時 会 議 所

○地元プレス関係者との会見に関する意見交換

1982年8月25日(水) 午後12時30分 会議所

○MEDISAVE SCHEME (案)について意見交換会

1982年10月8日(金) 正午 日立造船

○「NEW STYLE NEGOTIATION」に関するNTUCとの懇談会の打合せ

1983年2月22日(火) 午前10時 会議所

○中曽根総理大臣ご一行歓迎午さん会打合せ

1982年3月31日(木) 午後12時30分 会議所

(5) 講演会・懇談会活動

①会員講演会

○日時:1982年6月22日(火) 午後2時

場所:MANDARIN HOTEL

テーマ:日本経済の強さはどこまで続くか?

講師:日本長期信用銀行 取締役調査部長 竹内 宏 氏

○日時:1982年11月5日(金) 午後6時

場所:APOLLO HOTEL

テーマ:オフィス・オートメーション(OA)入門

講師:JAPAN-SINGAPORE INSTITUTE TECHNOLOGY (JSIST)

中村 茂 氏

○日時:1982年11月12日(金) 午後6時

場所:APOLLO HOTEL

テーマ:同上

講師:同上

○日時:1982年11月19日(金) 午後6時

場所:MANDARIN HOTEL

テーマ:同上

講師:同上

○日時:1982年11月26日(金) 午後4時

場所:JSIST

JSIST 見学

② 会員懇親パーティ

○ 日 時：1983年3月28日（月） 午後7時

場 所：MANDARIN HOTEL

③ 懇談会活動

◎ 学識経験者等との懇談会

○ 大阪商工会議所古川会頭との懇談

1982年7月3日（土） 午後7時 雲海レストラン

○ 東海大学経営工学部教授唐津一氏との懇談

1982年7月24日（火） 午後6時30分 MANDARIN HOTEL

○ 第1回国際貿易・投資コンベンションに関するASEAN招待ミッション
ご一行との懇談

1982年10月11日（月） 午後8時 MANDARIN HOTEL

○ 在星日系報道関係者との懇談

1982年11月3日（水） 午後7時30分 PAVILION HOTEL

○ 天谷・通産省顧問との懇談

1983年2月11日（金） 午後7時 MANDARIN HOTEL

○ ASEAN 人づくり PROJECT に関する日本政府派遣ミッションとの懇談

1982年11月25日（木） 午後12時30分 会 議 所

◎ 地元関係機関との懇談会

○ SINGAPORE INTERNATIONAL CHAMBER OF COMMERCE との懇談

1982年6月18日（金） 午後12時30分 SHANGRI-LA HOTEL

○ 地元プレス関係者との会見

1982年9月1日（水） 午後12時30分 会 議 所

○ 元在日大学留学生協会（JUGAS） 幹部との懇談

1982年9月13日（月） 午後7時 雲海レストラン

○ 元在日大学留学生協会（JUGAS） メンバーとの懇談

1982年11月22日（水） 午後7時 MANDARIN HOTEL

○ SINGAPORE INTERNATIONAL CHAMBER OF COMMERCE との懇談

1983年1月15日（土） 午前10時 S I C C

◎当地政府関係者等との懇談会

○NPB 長官 DR. WONG との懇談

1982年5月10日(木) 午前9時

NPB BOARD RM

○シンガポール政府経済顧問 DR. WINSEMIUS との懇談

1982年5月20日(木) 午後2時

EDB 会議室

○リー首相と雇用者機関代表者との懇談会

1982年8月11日(水)

イスタナ

○MEDISAVE SCHEME について MINISTER OF HEALTH との懇談

1982年10月11日(月) 午後3時

M.O.H.CONFERENCE RM

○MEDISAVE SCHEME に関する保健省次官との懇談

1982年12月21日(火) 午後12時30分

会議所

○NTUC MR. LIM CHEE ONN 氏他との懇談

1983年2月22日(火) 午前11時

NTUC CONFERENCE RM

◎四者会談(日本大使館、JETRO、JOEA、本所)

第1回 1982年7月15日(木) 午後1時

雲海レストラン

第2回 1982年11月22日(月) 午後12時30分

"

(6) 要人・ミッション受け入れ

① 要人歓迎レセプション

○桜内外務大臣ご一行歓迎会

1982年6月17日(木) 正午

SHANGRI-LA HOTEL

○大阪商工会議所古川会頭との懇談

1982年7月3日(土) 午後7時

雲海レストラン

○江崎ミッション歓迎会

1982年8月1日(日) 午後7時

MANDARIN HOTEL

○始関建設大臣ご一行歓迎会

1982年10月4日(月) 午後7時

MANDARIN HOTEL

○第1回国際貿易・投資コンベンションに関するASEAN招請ミッション

ご一行歓迎会

1982年10月11日(月) 午後8時

MANDARIN HOTEL

○中小企業政策国際会議地元協賛事業に伴うASEAN 各国招請団との懇談

1982年10月12日(火) 午後7時30分 THE PAVILION

○関西経済同友会派遣第二次日本－ASEAN 交流調査団との懇談

1982年12月2日(木) 午後12時30分 会 議 所

○通産省派遣「タイ・シンガポール投資環境調査団」ご一行との懇談

1983年2月4日(金) 午後12時30分 MANDARIN HOTEL

② ミッション受け入れ

○仙台商工会議所一行との懇談

1982年4月17日(土)

○沖縄商工会議所青年部一行との懇談

1982年4月19日(月)

○大阪府合理化協会一行との懇談

1982年6月15日(火)

○山一証券海外研修団一行との懇談

1982年8月19日(木)

○日本小売業協会一行との懇談

1982年9月1日(水)

○佐賀県伊万里商工会議所一行との懇談

1982年9月6日(月)

○徳島商工会議所一行との懇談

1982年10月14日(木)

○北九州商工会議所(北栄会) ミッションとの懇談

1982年10月19日(火)

○小柳証券一行との懇談

1982年10月25日(月)

○相模原商工会議所一行との懇談

1982年11月3日(水)

○山形県商工会議所連合会一行との懇談

1982年11月27日(土)

○鹿児島ミッションとの懇談

1983年1月17日(月)

(7) 広報活動

当国事情の理解促進並びに企業経営の参考に資するため本年度においても各種資料の出版・翻訳等を行ったほか、適時会員に有用と思われる情報の提供に努めるなど活発な広報活動を展開した。

本年度における主な作成・配布資料は下の通りである。

- ◎「月 報」……本所機関誌。広報委員会の編集で毎月号を発刊。
- ◎「会員名簿」(1982年) ……業種別会員名簿。昨年度から和文・英文併記。
- ◎「シンガポールの概況」……主要経済指標を中心とするシンガポールの現状。
- ◎「シンガポールの経済事情」 ……シンガポールの貿易、工業、財政・金融、国際収支、労働、運輸、観光にいたる各分野の動向。
- ◎「JAPANESE AFFILIATED FIRMS…在「シ」日本国大使館 JETRO 及び本
IN SINGAPORE 」 所の三者による日系企業実態調査にも
とづく786社の最新情報を収録。
- ◎「トップマネジメントの ……各企業の実際の経験にもとづく必要な
ためのオリエンテーション」 情報を網羅(改訂版)
- ◎「1982年NWC勧告全文」(仮訳)
- ◎VITB NEWS
- ◎翻訳出版(日本・シンガポール協会との共同編さん)
 - ・「財務諸表公開原則」
 - ・「シンガポール共和国に於ける日系進出企業現況一覧」
 - ・「シンガポールの租税」

(8) シンガポール日本商工会議所の役員等

1982年6月開催の本所年次総会以降における本所役員等は以下の通りである。

○会 頭

水戸 清 氏 (日立造船) 1982年6月～現在

○副会頭

青柳 茂雄氏 (三井物産) 1982年6月～現在

岡田 貞則氏 (三菱銀行) 1982年6月～1982年7月 (帰国)

岸 寛正氏 (東京銀行) 1982年8月～1983年1月 (帰国)

田中 寛治氏 (三菱銀行) 1983年2月～現在

○理 事

(総務担当) 大山 治郎氏 (日商岩井) 1982年6月～現在

(組織担当) 高橋 治氏 (新日本製鉄) 1982年6月～現在

(企画担当・正) 後藤 敏邦氏 (トミー) 1982年6月～現在

(企画担当・副) 西村 福太郎氏 (住友商事) 1982年6月～1983年3月
(帰国)

(渉外担当) 倉重 正樹氏 (東京海上火災) 1982年6月～現在

(財務担当) 平井 喜平氏 (三井銀行) 1982年6月～現在

(労働担当・正) 古新居 康氏 (JURONG ENGINEERING) 1982年6月～現在

(労働担当・副) 後藤 敏邦氏 (トミー) 1982年6月～現在

() 筒井 義雄氏 (伊勢丹) 1982年6月～現在

() 小出 富夫氏 (松下電器) 1982年6月～現在

() 渡部 悌介氏 (S'PORE TIME) 1982年6月～現在

(第一工業部会・正) 早船 好蔵氏 (岡本工作機械) 1982年6月～1983年3月
(帰国)

(第一工業部会・正) 三森 和正氏 (岡本工作機械) 1983年4月～現在

(第一工業部会・副) 大崎 直道氏 (日立金属) 1982年6月～現在

(第二工業部会) 七戸 真次氏 (ハイモールド) 1982年6月～現在

(第三工業部会) 黒岩 免氏 (NEC S'PORE) 1982年6月～現在

(建設部会)	古田 孝行氏 (熊谷組)	1982年6月～現在
(貿易部会)	三宅 源嗣氏 (丸 紅)	1982年6月～現在
(金融保険部会)	湯本 佳伸氏 (住友銀行)	1982年6月～現在
(運輸通信部会)	安田 達夫氏 (大阪商船) 三井船舶	1982年6月～現在
(流通サービス部会)	今中 太郎氏 (ニットクラフト)	1982年6月～現在
(化学品石油部会)	豆原 寛氏 (伊藤忠)	1982年6月～現在
(広報委員会)	太田 良作氏 (第一勧業銀行)	1982年6月～1982年 10月 (帰国)
(広報委員会)	吉村 晃氏 (日本郵船)	1982年12月～現在
(経営研究委員会・正)	渡部 悌介氏 (S'PORE TIME)	1982年6月～現在
(経営研究委員会・副)	筒井 義雄氏 (伊勢丹)	1982年6月～現在
(全般)	大塚 泰氏 (千代田化工建設)	1982年6月～現在
(全般)	林 孝雄氏 (三菱商事)	1982年6月～現在
(全般)	田中 寛治氏 (三菱銀行)	1982年8月～1983年 1月 (以降副会頭)
(全般)	種田 幸一氏 (日本郵船)	1982年6月～8月 (帰国)
(全般)	吉村 晃氏 (日本郵船)	1982年9月～1982年11月 (以降広報担当)
(全般)	生松 俊也氏 (東京銀行)	1983年2月～現在
(全般)	福田 哲治氏 (第一勧業銀行)	1982年11月～現在
(全般)	田本 耕三氏 (住友商事)	1983年4月～現在

(注) 理事の () 内は担当。順不同。

○ 名誉会員 桜井 清彦氏 1982年6月～現在

○ 監 事 森 茂二郎氏 (S'PORE-JAPAN
MERCHANT BANKING) 1982年6月～現在

福田 俊介氏 (S'PORE NOMURA
MERCHANT BANKING) 1982年6月～現在

○顧問	末包 盛之氏 (日商岩井)	1982年6月～現在
	福森 鋭一氏 (住友商事)	1982年6月～現在
	小見山 大輔氏 (PETROCHEMICAL CORPN OF S'PORE)	1982年6月～現在
	馬場 太平氏 (三菱シンガポール重工業)	1982年6月～現在
	町田 栄次郎氏 (東レ (アジア))	1982年6月～現在

○オブザーバー	沢池 忍氏 (JETRO)	1982年6月～現在
	辻 彰一氏 (JOEA)	1982年6月～現在
	片山登喜男氏 (日本大使館)	1982年6月～現在

○正副部会長

※第一工業部会

部会長	竹田 力 氏 (日本オイルシール工業)
副部会長	根本 勇夫 氏 (天龍・シンガポール)

※第二工業部会

部会長	前田 愛雄 氏 (カネカ・シンガポール)
副部会長	今村 行孝 氏 (積水・シンガポール)

※第三工業部会

部会長	竹内 源之 氏 (東光電子・シンガポール)
副部会長	中村 秀雄 氏 (アイワ・シンガポール)

※建設部会

部会長	花嶋 晴道 氏 (大林組)
副部会長	清水 邁 氏 (清水建設)

※貿易部会

部会長	松延 直征 氏 (トーマン)
副部会長	小寺 喜八郎氏 (丸紅)

※金融保険部会

部会長	堀内 正士 氏 (日本債券信用銀行)
副部会長	安楽 明郎 氏 (大正海上火災保険)

※流通サービス部会

部会長 仲井 澄 氏 (大永紙通商)

副部会長 野村 朝男 氏 (静岡谷島屋)

※化学品石油部会

部会長 甲斐 勝 氏 (日本石油)

副部会長 清 有 氏 (丸 紅)

※繊維分科会

分科会長 山下 隆三 氏 (兼松江商)

副分科会長 江頭 邦敏 氏 (兼松江商)

※ゴム分科会

分科会長 戸田 新七 氏 (加 商)

○委員会

※広報委員会

委員長 稲田 好美 氏 (時事通信)

副委員長 羽田野 隆 氏 (伊藤忠商事)

委員 東屋敷 俊一氏 (松下電器)

・ 垣本 益男 氏 (ODS 長崎屋)

・ 村山 敏郎 氏 (伊勢丹)

・ 永井 柳雄 氏 (博報堂)

・ 鈴木 正博 氏 (JETRO)

・ 竹内 忠光 氏 (村田製作所)

・ 植木 公従 氏 (東京銀行)

・ 内山 正明 氏 (渋沢倉庫)

・ 吉川 直身 氏 (トッパン・シンガポール)

・ 杉野 一夫 氏 (JOEA)

・ 斎藤 正一 氏 (日本国土開発)

・ 樋野 知二 氏 (松下電器) (帰国)

・ 柳生 安信 氏 (松下電器) (帰国)

・ 林 茂樹 氏 (日本国土開発) (帰国)

※経営研究委員会

委員長	城戸 尚志 氏 (シンガポール神戸)
企 画	大崎 直道 氏 (日立金属)
会 計	仲村 孝雄 氏 (エンプラス)
書 記	久保 浩 氏 (日立造船)
委 員	今中 太郎 氏 (ニットクラフト)
・	早船 好蔵 氏 (岡本工作機械) (帰国)
・	山口 徳重 氏 (ナック・シンガポール)
・	七戸 真次 氏 (ハイモールド)
・	筒井 義雄 氏 (伊 勢 丹)
・	平井 一次 氏 (日立化成・シンガポール)
・	早野 美知男氏 (横河電機) (帰国)
・	中谷 卓也 氏 (東亜建設工業)
・	渡部 悌介 氏 (シンガポール・タイム)
・	上原 信博 氏 (日本国大使館) (帰国)
・	二村 一就 氏 (シンガポール松下電子部品)
・	平元 武治 氏 (日立エレベーターエンジニアリング)
・	登内 昭 氏 (ルピコン・シンガポール)
・	後藤 敏邦 氏 (トミー)
・	小池 良男 氏 (三洋電子)
・	安川 一夫 氏 (河合・シンガポール)
・	小久保 巍 氏 (日本水産)
・	小出 富夫 氏 (松下電器)
・	広田 正穂 氏 (加藤スプリング製作所)
・	竹田 具視 氏 (ヤオハン・シンガポール)
・	黒岩 奂 氏 (NEC SINGAPORE)
・	川村 哲夫 氏 (キャノン・シンガポール)
・	三森 和正 氏 (岡本工作機械)

委員 渡辺 昭雄 氏（横河電機）
 若木 文男 氏（日本国大使館）

○ 事務局

※事務局長 川崎 克洋 氏
 MR. WONG MIN YONG
 MDM. TAN POW CHOO
 MR. KOH KHOON LEONG

(9) シンガポール日本商工会議所の代表者派遣

① 政府審議会

- National Wages Council
 水戸 清 氏（日立造船）
 大塚 泰 氏（千代田化工建設）
 後藤 敏邦 氏（TOMY）
- National Productivity Council
 水戸 清 氏（日立造船）
 後藤 敏邦 氏（TOMY）
 古新居 康 氏（JURONG ENGINEERING）

② 政府委員会

- Subcommittee on Education of Students
 水戸 清 氏（日立造船）
- Advisory Committee on Training
 渡部 悌介 氏（SINGAPORE TIME）
- Subcommittee on “Productivity Activities in Individual Firms”
 七戸 真次 氏（HYMOLD）
- Subcommittee on Productivity Congress
 川崎 克洋 氏（シンガポール日本商工会議所）

③ 政府及び同 関係機関

- National Productivity Board

大塚 泰 氏 (千代田化工建設)

- Vocational and Industrial Training Board

水戸 清 氏 (日立造船)

早野 美知男 氏 (横河電機)

- Institute of Southeast Asian Studies

湯本 佳伸 氏 (住友銀行)

④ 現地関係機関

- Singapore International Chamber of Commerce

西村 福太郎 氏 (住友商事)

1982年度収支実績及び1983年度収支予算

(1983 年 4 月～ 1984 年 3 月)

1. 経常収支

項 目	82 年度予算	82 年度実績	予 算 比	83 年度予算
I. 収入の部				
1. 会 費	616,000	603,130	△ 12,870	640,000
2. 入 会 費	11,900	9,050	△ 2,850	9,000
3. 出 版 物 売 上	8,000	12,882	4,882	12,000
4. その他(補助金)	2,200	2,004.31	△ 195.69	2,000
5. 特別収支からの繰入	0	0	0	30,000
収入合計(I)	638,100	627,066.31	△ 11,033.69	693,000
II. 支出の部				
A.本部経費				
1. PERSONNEL EXPENSES	180,000	177,762.30	△ 2,237.70	201,000
2. OFFICE EXP.	86,500	139,994.20	53,494.20	192,500
3. MEETING EXP.	35,000	36,759.85	1,759.85	30,000
4. PRINTING & PERIODICALS	90,000	84,249.58	△ 5,750.42	85,000
5. POSTAGE & COMMUNICATION	19,500	16,665.96	△ 2,834.04	17,000
6. CONSUMABLES	15,000	8,156.60	△ 6,843.40	8,500
7. TRANSPORTS	4,000	2,852.50	△ 1,147.50	3,000
8. OFFICE EQUIPMENT	18,500	14,245.86	△ 4,254.14	14,500
9. ADVERTISEMENT	4,500	4,614.50	114.50	5,300
10. TRANSLATION & PUBLICATION	15,000	2,263.36	△ 12,736.64	2,500
11. SUNDRY EXP.	13,000	11,826.25	△ 1,173.75	12,000
12. RECEPTION EXPENSES	15,000	14,590.90	△ 409.10	10,000
13. PUBLIC RELATION	45,000	56,829.34	11,829.34	49,000
14. OTHER ACTIVITIES	30,000	5,000.00	△ 25,000.00	16,500
小 計 (A)	571,000	575,811.20	4,811.20	646,800

I. 経常収支（つづき）

項 目	82 年度予算	82 年度実績	予 算 比	83 年度予算
Ⅲ. 支出の部				
B. 部会・委員会費				
16. 第一工業部会	7,800	5,962.00	△ 1,838.00	5,000
17. 第二工業部会	5,300	3,234.20	△ 2,065.80	3,000
18. 第三工業部会	7,400	6,910.15	△ 489.85	6,000
19. 貿 易 部 会	5,900	4,078.20	△ 1,821.80	4,000
20. 金融保険部会	5,400	247.20	△ 5,152.80	1,000
21. 建 設 部 会	4,600	2,081.35	△ 2,518.65	2,000
22. 運輸通信部会	3,400	0	△ 3,400.00	1,000
23. 流通サービス	3,300	321.70	△ 2,978.30	1,000
24. 化学品石油部会	4,800	2,679.30	△ 2,120.70	2,600
25. ゴム分科会	1,300	0	△ 1,300.00	600
26. 繊維分科会	1,900	2,505.25	605.25	2,000
27. 経営研究委員会	9,000	10,333.15	1,333.15	10,000
28. 広報委員会	7,000	7,854.30	854.30	8,000
小 計 (B)	67,100	46,206.80	△ 20,893.20	46,200
支出合計 (Ⅱ) (A) + (B)	638,100	622,018.00	△ 16,082.00	693,000
次 期 繰 越	0	5,048.31	5,048.31	0

2. 特別収支

項 目	82 年度予算	82 年度実績	予 算 比	83 年度予算
Ⅰ. 収 入 の 部				
1. 前年度末累積税引 後剰余金	57,789.27	57,789.27	0	59,958.12
2. 前年度経常収支 繰越金	42,811.17	42,811.17	0	5,048.31
収入合計 (Ⅰ)	100,600.44	100,600.44	0	65,006.43
Ⅱ. 支 出 の 部				
1. 税金引当金	25,000.00	40,642.32	15,642.32	25,000.00
2. 経常収支への繰入	0	0	0	30,000.00
支出の部 (Ⅱ)	25,000.00	40,642.32	15,642.32	55,000.00
次期繰越 (Ⅰ - Ⅱ)	75,600.44	59,958.12	△ 15,642.32	10,006.43

理事会の動き

第167回 1983年6月14日(火) 午前8時

議 事：

1. 前回議事録承認

異議なく承認された

2. 審 議 事 項

(1) PRODUCTIVITY MONTH に関する JCCI 参加行事について

PRODUCTIVITY MONTH に関する JCCI 参加行事として SEMINAR, POSTER COMPETITION 及び QCC ACTIVITIES CONVENTION を実施する予定であり、その実行予算として総額 7,000 ドルを計上したい旨提案したところ、異議なく承認された。

(2) 中曽根首相歓迎午さん会の経費分担について

「飲食費総額 S\$17,770.55 を出席者総数 141 名(来賓 65 名、主催者側 76 名)で除した一人当たり S\$126 を主催者側参加者各位にご負担頂き、来賓者飲食費及び諸経費の合計 S\$9,561.55 を本所と日本人会で折半したい」旨事務局より提案したところ、異議なく承認された。

(3) NPC よりの要望

水戸会頭より「各企業において JOINT CONSULTATION, RESEARCH & DEVELOPMENT 及び IN-HOUSE TRAINING に積極的に取り組んでほしい」との NPC の要望が伝えられた。

(4) 昭和 58 年度経済協力貢献者表彰について

日本商工会議所より依頼のあった昭和 58 年度経済協力貢献者表彰の候補者推薦に関しては、従来通り正副会頭に一任することとなった。

3. 報 告 事 項

(1) 理事選挙結果

大山選挙管理委員長より「理事立候補者数は1983年5月16日正午の立候補届出締切時点で定款第36条Aに定める定員23名と同数のため、選挙規約第10項により全員無投票当選となった」との報告があった。

(2) シンガポール大学日本研究学科への寄付

「1982年2月9日の第151回理事会の決議にもとづき、1983年度分としてS\$10,000をシンガポール大学日本研究学科へ寄付する。また、この寄付金は日本紹介フィルム（ライシャワー編集）全30巻のうち13巻の購入に充当される予定である」旨事務局より報告した。

(3) EDB 長官との懇談会

5月17日のEDBのMR. P. Y. HWANG長官ほか幹部との懇談の様相について青柳副会頭より報告があった。

(4) 星日文化協会事務局長 陸 漢威氏よりの礼状

先般、星日文化交流の長年の功績を認められ瑞宝彰勲三等を受けられた陸 漢威氏より水戸会頭宛礼状が届いた旨事務局より報告した。

(5) MEDISAVE SCHEMEに関するSBCの質問に対する JCCI 見解

「本件に関しては、6月7日までに回答しなければならないといった時間的制約のため、急拠労働担当理事および金融・保険、商社部門の理事の方々にご参集頂き、審議のうえ、配布資料の通り回答した」旨事務局より報告した。

(6) 部会・委員会等開催報告

① 部 会

◎ 5月13日（金） 貿 易 部 会

◎ 5月24日（火） 金融・保険部会

◎ 6月 1日（水） 流通サービス部会

②委 員 会

- ◎ 5 月 1 2 日 (木) 経営研究委員会
- ◎ 5 月 1 6 日 (月) 第 2 回選挙管理委員会
- ◎ 6 月 9 日 (木) 広報委員会

③懇 談 会 等

- ◎ 5 月 1 7 日 (火) EDB長官との懇談会
- ◎ 5 月 1 9 日 (木) 労働担当理事会
- ◎ 6 月 7 日 (火) "
- ◎ 6 月 1 0 日 (金) 運営担当理事会

(7)大分県知事・県内商工会議所会頭ミッション来星予定

大分県知事・県内商工会議所会頭はじめ約 4 5 0 名からなるミッションが7月上旬に来星予定であり、本所に対しても7月4日の港湾施設や工場見学のあっせん依頼がきている旨事務局より報告した。

4. 入・退会

高橋組織担当理事より下記の入・退会が報告され、審議の結果、次の通り決定した。

(1)入 会 (3 件)

- ** YAMAICHI SECURITIES CO., LTD. " B "
- ** HIBIYA ENGINEERING LTD. " B "
- ** T. SHIMATANI " D "

(2)退 会 (1 件)

- ** MORITA SINGAPORE PTE. LTD. (法人)

5. 会 計 報 告

吉永財務委員のレポートにもとづき、事務局より1983年5月分の会計報告を行ない、異議なく承認された。

6 — 7 月 の 主 な 経 済 記 事

6 月 16 日 ◦ 業界筋によると、先週、インドネシア国営石油会社からシンガポール精油各社に対し今年第 3 四半期分の原油委託精製量が通告されてきたが、その量は全社合計で日量 7 万 5 0 0 0 バレルとなっており、今年上半期の精油量 1 7 万 バレルの約 5 6 % 減という予想以上の大幅カット。当地業界では第 4 四半期にはさらに減少、来年中頃までにはインドネシアからの委託精油ビジネスはゼロになるのではないかと懸念している。インドネシアからのビジネス減少に対処する為、シンガポール精油業界では中国やインドなどの代替市場開拓努力を続けているものの、まだ具体的成果は得られていない。

◦ 貿易局 (T D B) が 1 5 日発表したところによると、シンガポールから ASEAN 諸国向けの輸出品のうち新たに 4 2 7 品目に 2 0 ~ 2 5 % の関税引き下げが認められることになった。

これは昨年 1 1 月 1 1 ~ 1 3 日シンガポールで開かれた第 1 4 回 ASEAN 経済閣僚会議の決定に基づく措置で、今年 1 月から発効している。同会議で加盟各国は 1978 年の統計に基づいて輸入額 1 0 0 万 ~ 2 5 0 万 U S ドルの輸入品については域内貿易特惠として 2 0 ~ 2 5 % の関税引き下げを行なうことに同意している。

これにより、合計 4 2 7 品目が新たに 2 0 ~ 2 5 % の ASEAN 特惠マージンを適用されることになったもので、例えばタイ向けの電動タイプライター輸出は現行の最恵国税率が 3 0 % であるのに対し、今後は 2 4 % の輸入税を同国に納めるだけでよくなる。また、マレーシア向けに合成

樹脂およびプラスチック原料を輸出する場合、同国の輸入関税が現行の3%から2.4%に引き下げられる。インドネシア向けひよこ（鶏）の輸出とフィリピン向け電気部品輸出についても、輸入関税がそれぞれ現行の30%から22.5%に引き下げとなる。

また、昨年と同じASEAN経済閣僚会議で別の24品目について域内貿易特惠を交換することも合意されており、その中にはフィリピン向け手動とう写複写機、インドネシア向けゴム製フロアタイル、マレーシア向けスーツケース、タイ向け射出成型機の輸出などが含まれている。

これらの域内関税引き下げは、1982年8月1日実施された輸入額50万～100万USドルの品目に対する関税引き下げに続く措置という。

こうした域内特惠関税を利用するためには、貿易局輸出証明課（Export Certification Unit）から原産地証明を得なければならないが、貿易局では、域内貿易特惠の利用については輸出証明課に問い合わせるよう案内している。特惠品目リストも同課に用意されている。

6月27日 ○観光客数の伸びの減速化と新ホテルの建設による競争のため、昨年のホテル客室利用率は前年比5%減の80.8%となった。

昨年は880の客室が増加したのに対し、シンガポールを訪れた観光客の伸びは4.5%にとどまり、2ケタの伸びを記録した過去2年に比べ著しく鈍化した。このため、伝統的ホテル業が好況を迎える8月、10月及び11月の客室利用率も82.3～86%となり、特に400室を超える大型ホテルでは昨年の月平均客室利用率が1979年1月以来初めて80%の大台を割った。

しかし暫定推計によると、観光客全体の支出総額は昨年

は24億4000万Sドルと前年の23億2000万Sドルから1億2000万Sドル増加しており、平均滞在日数も1980年および1981年の3.7日から昨年は3.8日に延長している。

業界にとっての問題は、このところ度々指摘されているように、今後のホテル客室数の増加。シンガポール全体のホテル客室数は1982年12月の1万5882室から87年末には3万995室に倍增する見通し。このうち、85年には一挙に19軒のホテルがオープンし、約1万室の客室が追加供給される見込みとなっており、業界にとって見通しは厳しい。

- 7月6日 ○貿易開発局(TDB)は輸出業者向けに海外市場の輸入要件に関する情報を提供する特別機関、技術的貿易諮問サービス(TTAS)を7月1日から発足させており、輸出業者は同機関から各輸出市場の関税及び関税率、貿易手続き及び規則、保健安全要件、包装・ラベリング・マーケティング規定、決済方法、外国為替規則などの情報を得ることができる。

現在、同サービスは主要30市場についての情報提供体制を整えているが、さらに多くの市場についても情報を整備中。

貿易開発局は、同サービスを利用すれば銀行や大使館など関係機関にいちいち足を運ぶ手間を省くことができる、と同サービスの利用を呼びかけている。問い合わせは同局 Information Officer の Mrs. Agnes Teo, Miss Doreen Lian または Mr. Raymond Png (Tel. 271 9388 ext 182, または 2730781) まで。

- マレーシア工業開発局(MIDA)が今年初め以来、シンガポール企業家から受けた工場進出や移転の申請はすでに

200件を超えた。これら申請中最も多いのは家具製造業で繊維衣料品工業がこれに次ぎ、電気電子工業が第3位を占めた。マレーシア政府は資本・技術の集約化を進めるシンガポールに対して、労働集約型産業の同国への移転を働きかけている。また、高付加価値部門への投資と労働集約型工業の自動化・機械化を奨励して以来、シンガポールの多くの投資家が相次いでマレーシアに投資の場を求めるようになった。シンガポールでパイオニア産業としての優遇措置を享受している企業が同特典の期限切れに伴い同様の優遇措置を求めてマレーシアへ移転するケースも増えており、こうした事情が最近マレーシアへの投資申請が激増した主要な原因と見られる。

- 11日 ○労働省が昨年5月、6月に実施した労働力調査結果によると、シンガポールの就業人口は前年比2.5%（2万4600人）増加して、117万に達した。また世界的不景気にも拘わらず昨年6月の失業率は前年同月比0.3%低下して、2.6%にとどまった。昨年の労働力調査結果には以下の2つの特徴が示された。第1に女性労働力の増加。労働人口中の女性労働者の比率は81年6月の44.8%から82年同月の45.2%へ0.4%増加した。第2に高齢就業者の増加。55～59才の男女労働者過去1年間にそれぞれ4.1%と2.8%増加となった。労働者の平均月収は81年6月のS\$433からS\$511へ18%増加し、男女別の平均月収はそれぞれS\$568とS\$395に達した。

広 報 欄

** NEW MEMBERSHIP (19th July, 1983)

* JAPAN LINE LTD, SINGAPORE

Mr. A. Hasegawa (Representative)
C/O Malay States Shipping CO Pte Ltd
79 Robinson Road #26-00
CPF Building
Singapore 0106
Tel: 2240068

* JAPAN GREEN HOSPITAL (PTE) LTD

Mr. M. Nozaki (Managing Director)
150 Orchard Road #03-15
Orchard Plaza
Singapore 0923
Tel: 7331213, 7348871

* NIPPON METAL INDUSTRY CO LTD

Mr. A. Fukuzawa (Area Representative)
10 Anson Road #27-12
International Plaza
Singapore 0207
Tel: 2255211/2

** CHANGE OF NAME OF REPRESENTATIVE

* MARUZEN OIL SINGAPORE PTE LTD

From Mr. T. Wada to Mr. N. Kawai

* MARUZEN ASIA PTE LTD

From Mr. M. Hirase to Mr. Y. Hatori

* NGK SPARK PLUG CO LTD

From Mr. G. Hashimoto to Mr. M. Kawashita

* SANYO ELECTRONICS (S) PTE LTD

From Mr. S. Yoshikawa to Mr. K. Ikawa

* RHYTHM SINGAPORE (PTE) LTD

From Mr. M. Sekiguchi to Mr. T. Inaba

* KIMPO-DO (S) PTE LTD

From Mr. K. Honda to Mr. H. Tojo

**** CHANGE OF ADDRESS**

*** NISSEI DENKI PTE LTD**

66 Tannery Lane #03-03

Sindo Building

Singapore 1334

Tel: 7479163/4

*** SINGAPORE DAIMARU PTE LTD**

292 River Vally Road

Singapore 0923

Tel: 7349381/2

*** MITSUBISHI ELECTRIC SINGAPORE PTE LTD**

1 Shenton Way #12-07

Robina House

Singapore 0106

Tel: 2251177 (5 Lines)

*** SINGAPORE NICHIEI PTE LTD**

585 North Bridge Road #08-08

Blanco Court

Singapore 0718

Tel: 2972977

*** EBARA CORPORATION**

16 Raffles Quay #32-02A

Hong Leong Building

Singapore 0104

Tel: 2256066 (3 Lines)

**** CHANGE OF COMPANY'S NAME**

*** CN-WEST LEISURE PARK PTE LTD**

From Mitsukoshi Garden Pte Ltd

To CN-West Leisure Park Pte Ltd

資料案内

国内一般

☆シンガポール共和国概要(1981年)	S\$10
シンガポール共和国移住法	S\$15
☆民事法	S\$ 5
刑法(暫定規定法)	S\$10
☆公益事業法	S\$10
☆シンガポールの経済事情(1982年12月)	S\$10
☆JAPANESE AFFILIATED FIRMS IN SINGAPORE	(非会員) S\$40
	(会 員) S\$20

投資関係

トップマネージメントのためのオリエンテーション	
(改訂版)	(非会員) S\$40
	(会 員) S\$20
資金援助制度の手引き	S\$ 8
法律15号(経済拡大奨励法改正法)1979年	S\$ 5

租税・税制

法律第2号共和国所得税法改正(1973年)	S\$ 5
法律第13号 " (1977年)	S\$ 5
法律第17号 " (1980年)	S\$ 5
法律第20号共和国所得税(改正)令	S\$ 5
☆シンガポールとの租税(所得)条約	S\$ 5
☆法律(改正)時報第21号(経済拡大奨励法及び所得税法改正法)	S\$ 5
☆シンガポールの租税	S\$15

会社法

シンガポール共和国会社法	(会 員) S\$60
	(非会員) S\$70
法律第1号(共和国会社法改正)1970年	S\$ 5
法律第4号(共和国会社法改正)1974年	S\$ 5
法律第19号1980年中央厚生年金法告示(付表の入替)	S\$ 5
☆法律16号(会社の買収及び合併に関する)	S\$ 5

為替管理・関税

関税法 (1979 年関税令)	S\$ 15
法律第 6 号 (為替管理法改正) 1976 年	S\$ 5
法律第 9 号 (共和国関税法改正) 1976 年	S\$ 5
☆金融業者法	S\$ 10
☆財務諸表公開原則	S\$ 15

業種別規則

シンガポール共和国製造業管理法	S\$ 8
法律第 18 号工場法改正法 (1973 年)	S\$ 5
大気汚染防止法 (1971 年)	S\$ 10
☆建築物規制法 (1973 年法律第 59 号)	S\$ 5

特許・商標・その他

シンガポール共和国特許 (実施権) 法	S\$ 5
シンガポール共和国商標法	S\$ 10
価格規則法	S\$ 5
☆ 1975 年水質汚染規制及排水法	S\$ 10
☆ 1971 年海汚染防止法	S\$ 5

労働関係

労働組合法 (1977 年)	S\$ 10
法律第 3 号 (共和国労働雇用法改正) 1970 年	S\$ 5
☆ 法律 (改正) 時報 (第 25 号)	S\$ 5
☆ 法律 (改正) 時報 (第 26 号)	S\$ 5
☆ 法律 (改正) 時報第 22 号 (雇用法並びに労働者補償法)	S\$ 5
☆ 法律 (改正) 時報第 23 号 (中央厚生年金法改正法)	S\$ 5
☆ 労働雇用法 (1976 年幼少年雇用規則)	S\$ 5
☆ 法律 (改正) 時報第 24 号 (中央厚生年金改正法)	S\$ 5
☆ 法律 (改正) 時報第 27 号 (中央厚生年金法を改正する法律)	S\$ 5

商工会議所出版物

☆業種別会員名簿 (1982 年)	(会 員)	S\$ 10
	(非会員)	S\$ 20
月報 (各月号)		S\$ 8
☆国際比較統計要覧		S\$ 5
☆シンガポール共和国における日系進出企業現況一覧		S\$ 20

(☆新着資料)

MONTHLY REVIEW

STRICTLY MEMBERS ONLY

M. C. (P) No. [REDACTED] 58 / 4 / 83

PRINTED BY
GREEN MOUNT PUBLICATION & PRINTING CO.,
155, Kallang Way #02-11/12
Singapore 1334. Tel: 2923831

JAPANESE CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY SINGAPORE

C. P. F. BUILDING, 79 ROBINSON ROAD, 24 - 04 (24th Storey) SINGAPORE 0106